

平成23年度東京都高等学校新人陸上競技選手権大会のみどころ(女子編)

今年のインターハイでは、東京都の女子は入賞が1種目だけと低迷した。来年の新潟インターハイで今年のリベンジを果たすべく今大会に飛躍を期待したい。幸いにも1・2年生には好選手がトラック・フィールドとも多くおり戦力は整っている。あとは、「経験」と「自信」を備え「心身ともに」強い選手に育ってもらいたい。

関東新人大会では「東京は強いな！」と他県選手に思わせることができるように頑張りましょう。

・短距離

支部新人では、第一支部の大井競技場では強い向かい風に阻まれ、他支部との記録的な比較ははしがたいが、やはり実力的には藤森 安奈(東京2)が数段上手であろう。夏場の故障も癒えて本来の走りが戻ってきただけに自己記録の更新を目指してほしい。藤森と競うのは高森 真帆(東京1)・柏木 真愛(都野津田2)・杉山 奈誇(八王子2)だが、ロングジャンパーの利藤 野乃花(白梅学園1)・林 小百合(八王子1)の存在はこの種目を確実にレベルアップさせている。藤森は優位だが楽観はできないところだ。ハイレベルの争いからそれぞれが成長することを大いに期待したい。

400mでは、インターハイに出場した村本明日香(戸板女2)が中心だが、支部新人で安西この実(白梅学園2)が56秒台にまで自己記録を伸ばしてきて全国レベルにまで成長した。また、尾崎 早苗(八王子1)・香坂 さゆり(白梅学園1)・志茂 里佳(白梅学園2)・中澤 郁香(東亜学園2)とこの夏に力をつけてきた選手が多く、この種目も激戦が予想される。57秒台が数多く記録されそう。

・中長距離

800m・1500m・3000mと3冠を予想させるのがト部 蘭(白梅学園1)だ。山口国体少年女子B1500mにも出場が予定されており、昨年の千葉国体でも中学生ながら入賞している。実績も申し分なく、インターハイでも800mで準決勝まで進出した。未知数の3000mでも大いなる可能性を秘めているだけに3冠(リレーも含めれば4冠かも)の可能性は高い。自分自

身との戦いになるのではないだろうか？これを阻止するのは3000mでの谷萩 史歩(八王子1)・有菌 早優(順天1)だろう。共に駅伝重視かとも思うが競り合いながら記録の向上を期待したい。

・ハードル

100mHでは、佐藤 あゆ子(早稲田実業2)が支部新人で14台をマークし好調だ。8月末の私学大会でも優勝し今大会も優勝候補の一番手であろう。佐藤と混戦に持ち込めば武山 詩歩・馬場 つぐみの東京2年コンビに勝機があるかもしれない。南関東では武山が7位と最上位である。

14秒前半のハイレベルの競り合いを期待したい。

400mHには、「ニューヒロイン」が誕生しそうだ。七種競技と走高跳でインターハイに出場した伊藤 明子(田園調布1)が新分野に挑戦し、いきなり1分02秒82をマークしたからだ。このタイムはインターハイでは準決勝に進出できる記録だ。それをはじめてのレースでマークできる潜在能力は非常に高い事が証明される。

1分の壁を破ることも十分考えられ「東京都高校新記録」がアナウンスされるかも知れない。今大会最大の注目の種目でもある。お見逃しなく！

・競歩

今年のインターハイから5000mに距離が延びた競歩種目。世界陸上でも日本の競歩チームは健闘した。

今大会11名の出場だが、30分の壁を一人でも多く破って欲しい。現在では、黒坂 美緒(都清瀬2)と若杉 遥夏(東京1)が30分を切り優勝を争いそう。

・跳躍

走高跳では、インターハイに出場し決勝まで進出した伊藤 明子が優勝候補だろう。今年1m67を何度も跳んでおり経験も積んできただけに安定感も増したことだろう。他には、昨年の中学時代に活躍した近田 万裕子(都駒場1)が復調してきた。高い能力を保持しているだけに好勝負が期待できる。また、インターハイに出場した古家

桃(都五商2)や根岸 志帆(戸板女2)・波多野 優衣(八王子2)・大元 悠花(東京2)にも1m60を大きく超える可能性があり久しぶりにレベルが上がるかもしれない。

走幅跳も混戦だが、こちらレベルが高い。5m88を1年生大会でマークした利藤 野乃花には6mを期待していいだろう。スプリント能力も向上し国体には少年女子Bで100mとこの種目に出場する。久しぶりの大会記録更新もあるだろう。ただ、今年はライバルが多い。利藤とは中学時代からのライバルである林 小百合(八王子1)も5m70を超える自己記録を持っている。同じく助走スピードが上がり自己記録の更新も可能性大である。また、インターハイに出場した國分 春菜(東京2)や佐野 恵(都文京2)、万能選手の伊藤明子とタレントは豊富で楽しみである。

三段跳は今年31名とたくさんの選手が出場し活況を呈してきた。その中で、中澤 陽子(戸板女2)・佐野 恵(都文京2)・志村 星来(早稲田実業2)の3名が11mを超える自己記録を持っている。関東新人に出場するには10m70以上が必要になるのではないだろうか？

・投擲

今年の砲丸投では1年生の活躍が目立つ。昨年の全中チャンピオン長沼 瞳(郁文館1)が12mまであと僅かに迫っているだけに今大会に期待したい。長沼を中学時代から追いかけてきた森田 栞・晴山 江梨花・新崎美深の東京トリオがどれだけ食い下がるかが注目だろう。

円盤投げでは、南関東大会7位とした武末 優(東京2)が35mを超えており非常に優位である。37m以上も期待できるが、ターンのスピードが上がらなくては難しくなる。川島 千穂(都青梅総合2)・森田 栞あたりも35mあたりまでの可能性がある。

やり投げは今年の1・2年生で40mを超えている選手がおらず混戦だ。しかし、南関東にも出場している藤原 泉水(白梅学園2)が実績で1枚上回っている。水本 有香(明中八王子2)のやりは初速があり好記録が出せる可能性がある。1年生も長沼・森田などが上位進出を狙っている。

・リレー

4×100mリレーは、やはり東京がリードしており新チームでも47秒前半をマークしている。

八王子と白梅学園も47秒台の可能性が高く混戦となりそうだ。

4×400mリレーでは、インターハイ準決勝まで進出した白梅学園が新チームでも3分50秒を切りそうだ。全国の激戦を経験した彼女たちはすでに来年のインターハイ決勝進出を目標にしている。「3分45秒を切らないと・・・」と。こちらでも東京・八王子が競り合うと思われ、両種目ともこの3校が優勝を争うだろう。特に八王子はインターハイでの経験をもとに力を発揮すれば「三つ巴」で競り合い記録も良くなるだろう。